



# 大原野地域

OOHARANO



小塩町の美しい棚田「フジバカマ園」から眺める市内風景



## 市井山居の大原野

### DATA

人口	8,891人
世帯数	3,171世帯
面積	24.712 km <sup>2</sup>
※平成27年国勢調査 (平成27年10月現在)	

### 学区・地域の紹介

西山の麓に広がる大原野は風光明媚なところで有名な神社仏閣も多  
く、春は桜・秋はもみじと四季折々、観光客も多く賑わっています。  
田園風景も広がり、米・茄子・筍は一大生産地です。これからも景観  
づくりと地域の振興活性化に向けて取り組んでまいります。

「源氏物語」の第二十九帖「行幸」に大原野が登場する。  
帝が臣下を引きつれ鷹狩りに出かける場面である。

「こうして大原野に御到着あそばして御輿を止め上達部の  
平張りの中で食事を召し上がり…」(現代語訳・与謝野晶子)  
とあるが、風景は描かれていない。ただ、鷹狩りで雉が登  
場することから、竹林が広がった風景が想像出来る。

文献によると紫式部は藤原氏の氏神である大原野を参拝  
しており、この時の印象を下に「行幸」の舞台に大原野を  
選んだのではないか。余談になるが「行幸」の次の帖は「藤袴」  
である。大原野で発見された絶滅寸前危惧種の藤袴の原種  
を保護し、小塩で育成に当たっている園芸家の藤井肇氏は、  
「行幸の次が藤袴という流れは、紫式部が大原野に来た時に  
咲き乱れる藤袴を見たに違いない。」と言っておられる。



誇らしげに咲く黄色と赤色のひまわり

次に白洲正子である。日本の美を極めたといわれる  
白洲正子(1910~1998)はその著「かくれ里」  
で大原野について書いている。

「このあたりは筍の名所で美しい竹藪がどこまでも続  
いて行く。(中略) 業平や西行の昔からここはこういう  
隠者たちのかくれ里であった。」紫式部から白洲正子の  
時代まで千年近くの時が流れるが、鷹狩りの舞台とか



誘蛾灯(ゆうがとう)に点火

くれ里、大原野は昔も今も田舎である。

「市井山居」という言葉がある。「市井」とは井戸があり、人が集まる所、つまり町を意味する。町で働き、田舎に居を構える、市街地までざっと40分の大原野は「市井山居」に最適の地である。「田舎暮らし」に憧れる人は定年後の高齢者だけではなく、自然に恵まれた環境で子どもを育てたいという若年層にも増えてきていると聞く。ネット社会がさらに進めば「山居」の流れは加速するのではないか。大原野には交通、通信、エネルギーなどの社会インフラは整っており、住みたい人を受け入れ、若年層の流出を防ぐために解決すべきことは、やはり住居の問題だろう。

次の課題は「大原野ブランド」の創出だと思う。ハドルは高いが決して不可能ではない。この地には、白洲正子が愛した善峯寺、勝持寺、金蔵寺など、ブランドイメージを高める素晴らしいコンテンツがある。筍はすでにブランドである。これまでブランド戦略については検討がなされ、熱い想いの人たちが事業を展開していると聞いているが、なかでも藤袴の育成事業などは大いに役立つのではないか。

ネット時代の情報発信においては“かくれ里”的姿勢ではいけない。“由緒ある田舎”を大いに発信することが大切だと想う。(大原野南春日町 中澤 隆司)



4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

年間行事	・大原野神社の例祭 ・大原野神社子供みこし ・自治会長と各種団体長による合同会議	・日赤社資増強運動 ・大原野森林公園体験学習 ・野田会の田の虫送り ・「大原野だより」発行 ・河川美化活動(小畑川・善峰川の河川清掃)	・大原野森林公園体験学習 ・野田会の田の虫送り ・「大原野だより」発行 ・河川美化活動(小畑川・善峰川の河川清掃)	・自主防災研修 ・大原野神社御田刈祭 ・敬老のつどい	・共同募金運動 ・区民体育祭 ・フェスティバル大原野	・風土・food大原野 ・年末特別警戒パトロール ・大原野消防分団出初式 ・「大原野だより」発行 ・自治連合会主催による懇親旅行
------	--	---	--	----------------------------------	----------------------------------	--

## PHOTO GALLERY



御田刈祭の土俵祓(どひょうばらい)



情緒溢れる秋の大原野神社

OOHARANO